

新社会

発行所：新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神保町2-10 三辰工業ビル3F
TEL 03 (6380) 9960 FAX 03 (6380) 9963
振替 00140-0-149727 1ヵ月600円 郵送料 1ヵ月164円

新社会千葉

2021年4月 222号

発行：新社会党千葉県本部

千葉市中央区新田町7-5 石出ビル3-A
TEL 043-244-6865 FAX 043-244-6864
E-mail:sinsya@lily.ocn.ne.jp
HP URL:http://sinsya.webcrow.jp/

福島原発千葉訴訟 東京高裁

国の責任を認める画期的判決

千葉県原発訴訟の原告と家族を支援する会 呼びかけ人 永野勇

2011年3月11日に発生した東電福島第一原発事故により福島県内から千葉県内に避難を強いられた原告17世帯43人(千葉地裁に提訴時は18世帯45名)が国と東電に損害賠償を求めた控訴審判決で、東京高裁(白井幸夫裁判長)は2月19日、国の責任を否定した一審千葉地裁判決を覆し、国と東電の責任を認めて両者に賠償を命じました。

全国で約30ある国を被告に含めた裁判での控訴審判決は今回で3件目。国の、賠償責任を巡っては、昨年9月

の生業(なりわい)訴訟で仙台高裁が認めましたが、今年1月の前橋訴訟では東京高裁が否定するなど高裁でも判断が分かれていました。

争点は巨大津波予見
主な争点は、国の「地震調査研究推進本部」が2002年7月に三陸沖から房総沖にかけて巨大地震が起きる可能性を公表した「長期評価」の信頼性や、国と東電が巨大津波を予見して事故を回避できなかったかどうかです。

長期評価は福島県沖などでマグニチュード8級の津波地震が起きる可能性があるとする内容で、原告側は長期評価に基づけば巨大津波を予見でき、事故を防げたと主張しました。一方で、国と東電は長期評価には専門家から異論があったことなどから「知見として不十分だった」と反論していました。

東京高裁の判決は、上記「長期評価」が客観的かつ合理的な根拠に基づき規制権限を義務づける知見であると認めた。予見可能性を肯定した上で、遅くとも長

期評価が公表された平成14年7月からその1年後には、国は東電に対し、技術基準適合命令を発することができたとし、そして本件津波までの7年半余りを費やせば、津波防護の措置を講じたことができたとも認めました。

賠償額は不十分
今後の最高裁闘争を考えた時、仙台高裁だけでなく東京高裁でも国の責任を認めた判決は大変重要な事です。そして、東電において主要建屋や重要機器室の水密化措置を講じていけば、本件津波の浸水の規模を相当程度抑制できたとして結果回避可能性も認めました。それらを踏まえ、当該規制権限の行使を怠った国の対応は当該権限を定めた趣旨目的



脱原発署名 881万筆を提出

コロナ自粛のなか1500人が集会とデモ行進

3月27日に日比谷野外音楽堂で「さようなら原発」一千万署名市民の会主催の「さようなら原発首都圏集会」が開催されました。桜の花が満開の公園の一角にある会場はソーシャルディスタンスのために定員が1300人にされていますが、入れなかった人も含めて1500人が集まりました。

「福島事故から10年経ちましたが、政府はまだ「2030年には原発20パーセント」と言っています。福島反省が全くない。福島の人たちのこの10年間の苦痛。故郷を捨て、家を捨て、畑を捨て、海を捨て、逃げまどって途中で亡くなった人もたくさんいます。自殺した人もいます。そして、まだ帰れない人が4万人以上もいる。これだけの事実があるにもかかわらず止めない。

私たちは脱原発の「1000万人」署名を取り組み、先日881万筆を国会に提出しました。本日に一筆一筆に思いを込めていただいた署名です。3月18日には水戸地裁で東海第二原発の運

転を禁止するという明確な判断がされました。これは今後の運動に弾みをつけるでしょう。私たちはさらに力を入れて核兵器禁止条約を批准させたい。人類を救う、環境を守る、地球を救う、未来を救う、そういう運動を皆さんと共に進めたいと思います。」

5・9千葉県憲法集会
憲法を変えさせない市民のつどい
講演「先制攻撃は憲法違反！どこまで伸びる防衛予算」
講師：半田滋さん
元東京新聞論説兼編集委員

日時：5月9日(日) 13:00
会場：千葉県教育会館新館501
主催：憲法を活かす会・千葉県協議会

米閣僚の初訪問先となつて大はしゃぎの日本。共同声明は憲法を墨で上塗りするものなのに、国民的利益を装い、国会の議論抜きで確認された▼声明は中国を軍事的に共同で牽制する戦略に基づき日米同盟の更なる強化をうたい、日本は盾としての役割の拡大を求められた▼声明は古く新しい勢力均衡の原則を基調としている。岡義武『国際政治史』によると、その目的は国際平和や協調ではなく、一国の優位な地位を他国の提携で阻止することにあり▼現在の国際政治を方向づけているのは米中対立。背景に烈しさを加える米中資本の対立があり、その覇権を巡る軍拡競争が行われている。日米豪印協議も「中国に手出しできないと思わせる」、伝統的な「合戦なき戦争」だ▼沖縄の辺野古や木更津のオスプレイに見る米国の対日安保政策を変えるには日本が変わらなければならない。基地は要らないと通告するだけでもアジアの緊張は緩和する。

「福島事故から10年経ちましたが、政府はまだ「2030年には原発20パーセント」と言っています。福島反省が全くない。福島の人たちのこの10年間の苦痛。故郷を捨て、家を捨て、畑を捨て、海を捨て、逃げまどって途中で亡くなった人もたくさんいます。自殺した人もいます。そして、まだ帰れない人が4万人以上もいる。これだけの事実があるにもかかわらず止めない。

私たちは脱原発の「1000万人」署名を取り組み、先日881万筆を国会に提出しました。本日に一筆一筆に思いを込めていただいた署名です。3月18日には水戸地裁で東海第二原発の運

転を禁止するという明確な判断がされました。これは今後の運動に弾みをつけるでしょう。私たちはさらに力を入れて核兵器禁止条約を批准させたい。人類を救う、環境を守る、地球を救う、未来を救う、そういう運動を皆さんと共に進めたいと思います。」

「福島事故から10年経ちましたが、政府はまだ「2030年には原発20パーセント」と言っています。福島反省が全くない。福島の人たちのこの10年間の苦痛。故郷を捨て、家を捨て、畑を捨て、海を捨て、逃げまどって途中で亡くなった人もたくさんいます。自殺した人もいます。そして、まだ帰れない人が4万人以上もいる。これだけの事実があるにもかかわらず止めない。

「福島事故から10年経ちましたが、政府はまだ「2030年には原発20パーセント」と言っています。福島反省が全くない。福島の人たちのこの10年間の苦痛。故郷を捨て、家を捨て、畑を捨て、海を捨て、逃げまどって途中で亡くなった人もたくさんいます。自殺した人もいます。そして、まだ帰れない人が4万人以上もいる。これだけの事実があるにもかかわらず止めない。

入党一年を振り返って 会議で決めたことを実践し仲間を増やす

山武長生支部 木内國司

新社会党中央執行委員より、黨員証を頂き十カ月余りが経ちました。

私たちの山武長生支部では、「動員には誰かを連れて行く」「署名は一人10筆以上」「健康食材の物販に1黨員1万円以上の購入」など、常に具体的に決めた数字的目標を立て、それを個々の黨員任せにしないで組織的に達成してきている。

昨年12月の支部会議で黨員の一人が、「決めたことをコツコツとやっていくだけ」と言っていたが、この運動への真摯な態度が「新社会」の拡大、黨員の拡大につながっている。

私は、長年ボランティア活動に終始していましたが、黨員となり、コロナ感染拡大の頃より、支部会議の出席、「新社会山武長生版」のチラシ配布、駅頭宣伝活動、長生村選挙応援、原爆の絵展、新社会読者会、憲法講演会など微力ながら参加し、学んできました。

その間、兄の離婚協議、負債の整理、生活保護申請、施設（認知症）の入居活動など市役所、病院、施設、金融機関、警察署、親戚兄弟宅などを奔走しました。

そして、3地区の自防炎補助金申請と資機材の購入及び整備活動、企画政策課より依頼の国勢調査活動など

ありましたが、奮闘しました。12月12日の憲法講演会と同日に、私が主宰するハイスクラブの定例山行と重なり参加が微妙でしたが、コロナ感染拡大に配慮し中止判断し急ぎよ講演会に参加できました。

お蔭様で、「菱山南帆子」さんの熱い、人としての生き方を学びました。近所に住んでいた昔、同じ全電通だった人に、もっと熱く参加の呼びかけをすればと反省しました。

講演会の帰りに、菱山さんの「嵐を呼ぶ少女とよばれて」を購入しました。

その本の中に特に私の心にすんなりが入った箇所は、「私たちは日々、地球にかか

る重力と闘い、さまざまなウイルスや細菌と闘い、飢えや寒さや暑さと闘い、自然災害や交通・労働災害など、生存と生活に関わるすべての面で闘っている。まさに生きること

は闘いなのだ。人はみな不正や不公平には怒り、困難や苦しみは乗り越えようと、力を合わせてよりよい関係や環境をつくり出してきているのではないか。

人間は他の生物と違って高度な社会を形成し、その営みのなかで生きていく存在である以上、社会との深い関わりは当然のことなのだ。ここでいう『関わり』こそが『闘い』なのだと考えれば、そのイメージも違って見えてくるのではないだろうか。闘うという

とは人間の生存本能にもとづいて、無意識のうち自らの生存と生活を成り立たせるために組み込まれた働きなのかもしれない。そう考えると、『闘い』という言葉に対する拒否感とか偏見なども少なくなるのではないか。

長い引用になりましたが、大切にしたいと思います。

原発反対意思表示あんなにはっきりと

岡崎宏美中央本部委員長が来葉なのはな生協を見学



東日本大震災からの「なのはな生協」の事業10年目の3月11日、所を見学されました。岡崎宏美中央本部委員長が来葉し、千葉市稲毛区にある「なのはな生協の連

動を見学させていた在も「自分たちの動きを学ばせていただきました。生協と扱っている食品からして原発反対の運動もも放射線がでてをされていて、配送していることも、の意思表示を、あんなに確かめてきなにはっきりと示されました。よく頑張っていることにびっくりして感動しました。

センターの中も見学そこに私たちの仲間から10年が経ち、現を感じました。



俳句 ~四季へのいざない~

白象の鼻のほころび花祭 水明
花祭は、四月八日に釈迦の誕生を祝う行事。中でも大阪四天王寺の花祭は特に有名だ。そして寺内の石舞台には釈迦像や白象が飾られる。白象は仏母の摩耶夫人が体内に白象が入る夢を見て釈迦を懐妊したという伝説に由来する。稚児行列などが行われ総じて子供中心のほのかな祭りである。掲句の「白象」はもちろん本物ではない。幼子の大好きな「ぞうさん」である。

東京五輪・パラリンピック

大会誘致、開催に見る日本の政治

オリンピック大会は4年に一度世界中の若者が一堂に会し、スポーツを通して健全な人間育成や相互理解と国際親善により平和な社会の実現に寄与しようという教育、平和運動の理念に基づいて続けられていきます。

終息が第一

私は、陸上100m走で10秒を切る9秒台の記録に驚き、人間の能力の無限の可能性に多くの感動を受けました。

復興を隠し 虚言で誘致
大会の招致をめぐる、買取疑惑により日本オリンピック委員会前会長の辞任、不安視

された東電福島原発事故による放射能汚染、そのなかで2倍に膨らんだ大会予算はさすがに見直されました。

溜まり続ける高濃度除染土壌や汚染水の海洋投棄問題、廃炉計画や使用済み核燃料の処置の見直しすら立たず、事故処理は遅れに遅れ10年経った現在も4万1千人以上が故郷に戻れずにいます。

未解決の放射能汚染や復興を隠し、観光立国を目指す安倍前首相は「私が安全を保証。状況はコントロールされている」と虚言により誘致を実現しましたが、オリンピックの理念とは相いれない目的

大会を開く条件として、当時の安倍首相は「完全な形で」、菅首相も「コロナを克服した証として」としました

が、安倍政権下で削り続けた社会保障や医療、後手後手の政策や感染を助長する政策などにより、第2波、3波と感染が続き1日に7千人を超える感染爆発の事態を招いてきま

した。国民や世界の大多数は、大会よりコロナ感染の終息を求めています。一定の感染の収束も見逃せないところからリバウンドが心配され、両首相が示した開催条件にほど遠い現在、大会を中止するべきです。

混迷の五輪 傲慢な政治

混迷状態に加え、五輪組織委員会の会長が女性蔑視の暴言で降板し、大会ボランティアの辞退が続いている。

そして開催を強力に主張する議員（自民党幹事長）の「謝ったからよい、募集を続けられよい」とした発言に思うところは、日本のスポーツ界を担うリーダーの育成や選出の大切さ、そして傲慢な政治家と相容れないオリンピックの理念である「政治的中立」が全うされる社会の大切さと実現です。

本紙3月号、狭山事件の記事中、石川一雄さん(84歳)は(82歳)の誤りです。訂正いたします。

【金井】